

令和6年度(公社)砂防学会研究発表会 「和歌山大会」への参加報告

(一財)砂防・地すべり技術センター 企画部

当センターは5月15日(水)～17日(金)に和歌山県和歌山市で開催された令和6年度(公社)砂防学会研究発表会「和歌山大会」に参加しました。今回の研究発表会では、これまでの現地調査や実験、検討、自主研究などの成果として、一覧表(表-1)のとおり、合計26件の発表を行いました。(写真-1)



写真-1 口頭発表の様子(砂防部 関根技師)

表-1 発表タイトル一覧

	タイトル	発表者	連名者	発表形式
1	融雪の影響を考慮した降雨流出解析の試行-梓川上流(上高地)を対象として-	五十嵐勇気	池田暁彦, 小林拓也, 小口貴雄, 後藤晃宏, 小泉和也	ポスター
2	令和2年7月出水における流木の流出状況等について	天野祐一朗	石井崇, 岡嶋康子, 高嶋啓伍, 小野寺智久, 宮瀬将之, 蔭山星	ポスター
3	簡易カメラを用いた立谷沢川流域の土砂動態モニタリング	関根峻	蔭山星, 土門弘和, 内田太郎, 平岡真合乃, Kalana Ariyakumera, Suneth Wimalawardhana, 一倉夏帆, Emilia Tanaami	口頭
4	火山砂防におけるハード対策の限界について	池田暁彦	藤沢康弘, 小林拓也, 福池孝記	口頭
5	火山噴火に伴う土砂移動現象に対するコンクリートブロックを用いた緊急対策工の考え方について その2	高橋健太	栢木敏仁, 池田暁彦	ポスター
6	災害発生時の流木処理費用に関する事例調査報告	宮瀬将之	後藤健, 飯田健嗣, 関戸伶奈, 伊藤仁志, 森田耕司, 富田陽子	ポスター
7	大規模噴火に伴う広域降灰時における緊急調査に係る課題	河野元	藤沢康弘, 福池孝記, 藤井直也, 酒匂俊輔	ポスター
8	浅間山における現状の砂防施設整備状況を考慮した緊急ハード対策の配置検討手法	篠原雄人	栢木敏仁, 高橋健太, 大坂剛, 宮嶋英樹	ポスター
9	焼岳火山噴火時における降灰厚等を把握するためのLPWA通信試験について	中家健吾	石井崇, 岡嶋康子, 真安智大, 小口貴雄, 後藤晃宏, 池田暁彦, 福池孝記, 河野元, 皆川淳, 金井啓通	口頭
10	大規模地震後の土砂災害警戒情報発表基準の引き下げに係わる検討	西内卓也	伊倉万理, 高橋和樹, 小林正直, 竹下航, 岸本優輝	口頭
11	火砕流数値シミュレーションの条件設定に関する留意点	小林拓也	志水宏行, 藤沢康弘, 竹原隆博, 岩田清徳, 本間雄介	ポスター
12	大規模地震発生時の土砂移動現象発生要因に関する考察	高橋和樹	小山内信智, 中谷洋明, 井上隆太	口頭
13	狭窄幅幅部を通過する土石流の数値計算について	三嶋太一	高濱淳一郎	ポスター
14	SLAM技術を用いた3次元点群計測の災害調査への適用性	宮城昭博	富田紀子, 加國奈緒子, 小林拓也, 池田暁彦, 山本敦也, 磯谷和也	ポスター
15	1m格子を用いた河道内大規模堆積土砂の downstream への輸送シミュレーション	嶋大尚	青木尊之, Marlon Arce Acuna	口頭
16	土砂・洪水氾濫を簡易に検討するためのシミュレーションプログラムの開発	吉田真也	嶋大尚	ポスター
17	コンクリートブロック堰堤モデルの底面応力に関する個別要素法による検討	井上隆太	志水宏行, 三上幸三, 栗原淳一, 香月智	口頭
18	土石流・土砂流における堆積侵食プロセス:(1)堆積侵食速度式に対する代数的・物理的考察	志水宏行	藤田正治	口頭
19	土石流・土砂流における堆積侵食プロセス:(2)数値シミュレーションによる細粒粒子流体化の影響評価	石丸桃子	志水宏行, 藤田正治, 和田真典, 吉田真也, 山越隆雄, 田中健貴	口頭
20	流木濃度の違いによる橋梁閉塞率とせき上げ水深の時間変化に関する検討	和田真典	吉田真也, 藤田正治, 竹林洋史	口頭
21	流木捕捉工における流木群捕捉時の荷重特性に関する一考察	山口大輝	中谷洋明, 井上隆太, 石丸桃子, 石垣拓也, 香月智, 堀口俊行	口頭
22	流木捕捉工における流木群捕捉時の捕捉高さに関する一考察	石垣拓也	中谷洋明, 井上隆太, 山口大輝, 石丸桃子, 香月智, 堀口俊行	口頭
23	令和6年能登半島地震における崩壊の集中性に関する一考察	森田耕司	小山内信智, 中谷洋明, 井上隆太, 高橋和樹	ポスター
24	応急的に設置するブロック積砂防堰堤の安定性に関する一考察	佐々木司	伊藤仁志, 鷲見直樹	口頭
25	土石流発生流域における「ゼロ次谷マップ」活用方法の検討～2023年7月豪雨を対象として	中谷洋明	信岡大, 下山奈緒, 濱田俊介	口頭
26	水害碑と防災意識の連関性	小山内信智	白岡翔平, 遠本泰弘	口頭

嶋丈示 首席研究員が 「砂防学会賞」論文賞を受賞しました

砂防技術総合研究所の嶋丈示 首席研究員が、令和6年度の「砂防学会賞」論文賞を受賞し、研究発表会開会式後に開催された令和6年度(公社)砂防学会定時総会において、授賞式と受賞講演が行われました。(写真-2, 写真-3)

嶋首席研究員は令和2年度にも同賞を受賞しており、今回で二度目の受賞となります。



写真-2 授賞式の様子(向かって左から二人目が嶋首席研究員)

◆受賞論文

「不透過型砂防堰堤の上流に付設する流木捕捉工の流木捕捉機能」

砂防学会誌第75巻第4号(通巻363号)2022年11月

◆論文概要

既設不透過型砂防堰堤に流木捕捉機能を付加する際の流木捕捉施設の配置方法として、直線配置と凸型配置の2つの方法を提案した。また、堰上げを抑制するための設置延長と水通し幅の条件を整理した。さらに、堰堤上流側が湛水状態の場合と掃流状態の場合における捕捉流木量の違いを示した。

◆推薦の理由

平成29年九州北部豪雨において過去最大級の流木災害が発生した。これを契機に、流木対策の一層の推進が求められるなか、既存の不透過型砂防堰堤に流木捕捉機能を後付けする方法について

合理的なデザインで実験を行い、かつ施設を適切に配置するための条件及び施設効果量の算定方法について有用な知見が得られている。

本業績は、既存の砂防施設の改良による流木対策の推進に大きく貢献したと考えられる。



写真-3 受賞講演の様子

嶋首席研究員受賞コメント

荣誉ある賞をいただきありがとうございます。今後の研究開発に向けて一層の励みになります。研究開発の動機は、従来の技術の更新にあります。従来の技術に甘んじることなく、もっと良いものがあるのではないかと、本当にこれでよいのか、といった視点で今の技術をみることで独自性や新規性が芽生えるものと考えます。1cmでも1mmでも進もうとすると、長さではなく重さだった、ということもあるかも知れません。そのためにも、今の技術を鵜呑みにせず、何かあるのではないかと疑ってみることも大事です。

今回の論文も完成した技術ではなく、まだまだ改良の余地はありますし、この技術が陳腐化するようなアイデアが生まれるかも知れません。先人たちの作った技術を超え、更新していくことが先人への敬意の表れであろうと思います。

「砂防学会賞」論文賞とは?

論文により砂防に関する学術の発展に顕著な貢献をなしたと認められるもの。論理性、新規性、信頼性、有効性、普遍性などが高く評価されるもの。(砂防学会ホームページより)